



こんにちば、^{たいゆうゆうこうかい}台熊友好会です。第二回の今回は、二回目にしていきなり?踏み込んだ内容のような気もしますが、台湾人のひととなりを知るのに役立つのでは、と思われるお話を少し書かせて頂きます。



日本人の慎重さや丁寧さは、時として仇になる?

台湾人と聞くと、どんな人柄を思い浮かべるでしょう。南国気質で明るくフレンドリー、ポジティブな人が多い、などでしょうか。他にも、家族との繋がりを大切にする、真面目に働く人が多いなども、挙げられるでしょう。そんな台湾人ですが、実際に接すると気付くことがあります。それは、前向きなことに対するレスポンスの早さ。とにかく早い。全員が全員とは言いませんし、こちらが確認しておきたい詳細など、少々面倒なことに対しては、その限りではありませんが、おしなべて早い人の方が、多いように感じます。返信の早さに代表される行動の早さの理由について「早くしないと忘れてしまうから」と話してくれた台湾人は、1人や2人ではありません。



少し前の話になりますが、とある台湾の大学から姉妹提携のオファーを受けた日本の大学が、前向きに検討したい意向を伝えたところ、程なくしてその台湾の大学から「調印を!」と協定書持参で訪問者があり、日本の大学側は、困惑してしまったという話を聞いたことがあります。



この二校、後に無事協定を交わすのですが、一つ一つの細かな詳細を詰めていく「1、2、3、4そして5」の日本に比べ、台湾は「1のあとは4、5」。途中の「2、3」は、後から調整。先の台湾の大学、それ以前にも別の日本の大学にオファーを出したことがあったようですが、このプロセスの違いもあってか、どの大学とも調印に至らなかったと言います。日本側が「2、3」のプロセスを踏む間に、台湾側の熱が冷めてしまうことも大いにあり得るのです。先の調印に至った日本の大学、流石に「1のあとは4、5」と全くの台湾式で進めるわけにはいかなかったようですが、「2、3」の一方をとび抜き、「1、2、そして4、5」と日本式としては、「少々アクロバティックに進めた」と後に聞きました。

中国語一言レッスン

ドゥーファイー
「都可以」

許可を表す「^{クワイ}可以」の前に、全てという意味の「^{ドゥー}都」がつくことにより、「どちらでもOK!」「どれでもいいよ!」といった意味になり、台湾では、気軽な会話の中でよく耳にします。選択肢の中でどれも可の場合など、是非「都可以」を使ってみてください。

台湾人、融通きかせたら天下一品?!

台湾は、基本空気を読んで察する文化ではないため「こんなことを今ここで聞いたら、おかしいかしら」なんて考えません。なので、とにかく聞いてみる。しかも後ではなく、今聞いてみる。例えば、自分だけでは回答できない問題に直面した時など、その回答は、後から来るかと思いきや「ちょっと聞いてみます」とその場で電話をかけて確認しちゃう。聞いてみると、これまた意外と簡単に、スムーズにことが運んでしまったりする。

「規定」に合わないような要望も、まずは聞いてみる。尋ねてみると「だったら、これではどうか」との代替案が、いとも容易く出てきたりする。

これは私の経験ですが、台湾で就労の場合「居留証(就労期間に準ずる)」を申請することになっており、基本的に「台湾への出入国時は、パスポートと共に居留証を提示すること」とされています。この居留証更新の初期の頃、「新しい居留証更新完了の手紙が、1週間前後で自宅に届く(その後更新完了の手紙を持って、移民署に現物を取りに行きます)」とだけ伝えられ、貴重な夏休みの期間中、完了通知をヤキモキしながら待っていました。しかしある年、申請先の移民署で、どうしても急ぎ帰国する必要があると相談してみたところ、「パスポートに重入国許可のステッカーを貼ることで、居留証がなくとも出入り自由だ」と教えられ拍子抜け。もちろん当初は、中国語が出来なかったこともあり、そんな情報にも全く辿り着けず。ま、これは、担当してくれる人によるところも、多少はあるかとは思いますが。

一方の日本は、「規定」から外れた何かに出くわすと、かなり高い確率でまずは、拒否する傾向にあるように感じます。

例えば日本の携帯電話の「家族割り」。台湾人は、原則夫婦別姓です。妻は、子供達とは苗字が違う。会長の徐もその一人。意気揚々と「家族割り」を申し込もうとショップへ出向いたものの、「苗字が違うので、出来ません」との回答。台湾に限らず、日本に住む外国人は、永住権はあるものの、戸籍謄本はなく、住民票のみの人も多くいます。住民票で対応できれば良かったのですが、子供達は県外の大学に通っていた関係で、住民票は県外へ。幸い全員配偶者の扶養に入っていたため、健康保険証を用いての対応を求めるも「出来ません」の一点張り。結果的には、小さな文字で書かれた要件にくまなく目を通し、「該当する」ことを勝ち得たと言います。

このエピソードに限らず、日本人のこのような行動は、「『自分達には、権限が与えられていない』と感じているからだ」と映るようです。

さて皆様の周りでは、いかがでしょうか。(石橋 妙子)